

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

古民家 サカカンカフェ



中田は江戸時代、利根川を挟んで中田宿、栗橋宿の合宿として栄えた町です。日光街道沿いにあり、今でも街道歩きの方が日光東照宮を目指して店の前を歩いていかれます。

酒井家は江戸時代より、旅籠、醤油蔵、特定郵便局、酒屋など商いを通して代々中田の地に根付いてきました。長男の名に「實」の字をつけることから、昔から「酒實」（サカカン）と呼ばれています。2年前空き家となり、この「家」を残すために古民家「サカカンカフェ」として再生しました。

店内は古い梁や社を残し、たんすの扉をテーブルにしたり、家具や漆器類を使用したり、古材でカウンターを作ったりしています。外観は古民家というより、白を基調としたモダンな雰囲気建物とし、店内とのギャップを感じていただくシンプルなデザインになっています。

醤油を醸造している時代に煙突として使っていたレンガがアクセントになっています。

講評

明治末年から昭和の初めにかけて河川改修のため移転した旧中田宿にあわせ現在地に移転し再生・活用した商家で、佇まいから往時の面影が伝わってきます。

現在地の雑多な景観との調和が難しかったと思われそうですが、工夫された復元手法は評価に値します。

一階部分の開放的なガラス戸越しに見える当時の材料や家具を再利用・再構築したインテリアから家業の変遷や歴史・文化を感じることができます。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

一の木の名に由来の古木と土蔵



当地は飯沼東岸台地にあり、古代からの遺跡が出土する地でもあり、土蔵は江戸時代年間に(天保)六代前当主の築と記され約180年間幾多の震災、風災を乗り越え、災害の都度守り続け現在の姿を保って居り、同敷地内に樹齢約500年と言われる県指定天然記念物(イチイガシ)の古木があり、土蔵と共に景をなして居る。当地の地名は恩名小字一ノ木となって居り、このイチイガシが古くより地名の由来となった証であり、現在も東仁連川の橋の名にもなって居り歴史的な意味も含め維持管理をして居ります。

尚下屋は機織部屋として利用されて居た当時の生活がしのばれる。

講評

江戸後期の建物のみでなく、古い樹木があることで、周辺に溶け込む景観、三和地区らしい地域景観を形成しています。門に隣接した蔵に付属する“漆小屋”は、形式的に見ても珍しく景観上のアクセントにもなっています。地域の景観として、長年、維持管理されている点は高く評価できます。

今後も、景観の形成に寄与していただきたいと思います。